

県内総合

建設情報

Iwate

繁殖・育成センターを建設へ

八幡平市 9月にも畜舎設計費など計上

八幡平市は、同市平笠地内への繁殖・育成センターの整備に向け、このほど概要がまとまったことから、7日に開かれた市議会全員協議会で概要を説明した。市では、9月の市議会定例会に水源・地質調査や畜舎等設計などを計上した補正予算を上程し、可決されれば調査・設計に入っていきたい考え。畜舎の設計は年度内にも固めたいとしている。

繁殖・育成センターは、畜産農家から牛を預かり、集団管理するための共同施設。市では、肉用牛で親牛300頭、子牛150頭、乳用牛で400頭の飼養管理できる規模の施設整備を計画。同センターは、市営上坊牧野の南側への整備を予定している。

敷地内には、牛舎のほか、堆肥舎や飼料を置くための場所、管理

棟などを設ける計画となっている。建物、は、すべて平屋建てを予定している。

肉用牛では、繁殖雌牛(黒毛和種)を預かり、夏季は公共牧野へ放牧し、閉牧期間中はセンターで飼養管理。利用モデルを見ると、農家の意向により▽分娩予定日前の2カ月前に農家の畜舎に戻り分娩。子牛は農家で育成し、母牛は再度センターへ預託▽親牛は周年で預託し、子牛は哺育までセンターで飼養管理。その後、子牛は農家へ引き渡し、市場出荷までは農家で子牛を飼養管理▽親牛は周年で預託。子牛も市場出荷の時期(約9カ月)まで預託一に大きく分かれるという。

乳用牛では、搾乳用の雌子牛を預かり、夏季は公共牧野へ放牧し、閉牧期間中はセンターで飼養管理

ニュースの
お知らせは

〒020 0015 盛岡市本町通3 9 33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

する。利用モデルとしては、出生後約1週間程度の雌の子牛を預かり、生後13カ月まで飼養後に16カ月までをめぐり人工授精。妊娠期を経て、分娩予定日の2カ月前には農家へ戻し、分娩。分娩後は搾乳して生乳を出荷する。

同センターの整備により、農家の労力などの軽減につながるほか、規模拡大(増頭)や担い手育成の支援強化が図られ、地域の畜産振興につながることを期待されるという。

今後のスケジュールを見ると、9月の市議会第3回定例会に水源・地質調査、造成測量設計、畜舎等設計を計上した補正予算を上程したい考え。可決されれば調査や設計に入る見通し。19年度に造成工事や草地造成・整備の実施設計を実施し、畜舎や関連施設については20年度から2カ年度で工事を実施。21年度内のセンターの稼働開始を目指す。草地造成・整備については、22年度の完成を目指すとしている。同センターの運営については、現時点でJ A新しいわてを予定している。

宮古市

赤沼設計が実施設計を担当 花輪保育所の建て替え 19年度の着工を目指す

宮古市は、老朽化した花輪保育所の建て替えへ、赤沼設計の担当で実施設計を進めている。新保育所の整備予定地は、花輪小学校用地内の南端部となる。木造平屋建てでの整備を軸に検討しており、床面積は550平方メートル程度の予定。18年度に実施設計をまとめ、19年度の着工を目指す。19年度当初予算で工事費を計上したい考えた。

現在の保育所は、同市花輪第5地割16番地にある。1972年12月に建設され、築40年以上が経過し老朽化が進行している。施設構造は木造平屋建て、床面積は301.40平方メートルとなっている。2017年4月1日現在で、39人の児童が入所している。

現在の保育所の敷地は、全体が土砂災害警戒区域に指定されているほか、施設の背面に当たる山裾側の一部は土砂災害特別警戒区域に指定されている。同市は入所児童の安全を確保するとともに、施設の老朽化を解消するため、新たな保育所の整備を検討してきた。新保育所の整備予定地は同市花

輪第4地割2番1で、花輪小用地の南端部となる。敷地面積は約1400平方メートル。整備予定地は土砂災害特別警戒区域には指定されておらず、洪水浸水想定区域にも含まれていない。

新保育所の規模は、550平方メートル程度となる予定。構造は木造平屋建てを軸に検討を加えており、今後の実施設計で具体化する。新たに0歳児からの受け入れを可能とする方針で、入所定員は60人程度に増やす見込み。計画では乳児室を新設するほか、保育室、遊戯室、事務室、調理室などを配置する。同市は6



新保育所の整備予定地イメージ

月7日に、実施設計業務と地質調査業務をそれぞれ指名競争で入札。入札の結果、実施設計は赤沼設計が909万円、地質調査業務は北杜地質センターが54万円で落札した。両業務とも履行期間は11月15日までとなっている。実施設計では、地質調査や測量などの結果を踏まえ、敷地を有効活用した形での配置プランを検討する。

今後のスケジュールとしては、19年度当初予算で工事費を計上したい考え。19年度に本体建築工事を発注する予定で、現時点では設備工事を分離で発注したい考え。19年度末までの完成、20年度当初の開所を目指す。

駒木不動沢堰堤の築造など

7日付で県、工事5件・業務3件

基本計画・基本設計を公告

＝釜石市・簡易公募型プロポーザル方式＝

集中監視装置設置など4件公告

＝宮古市契約管財課＝

公告・予告

県沿岸広域振興局

県沿岸広域振興局は7日付で、総合評価落札方式で実施する駒木不動沢砂防堰堤築造及び道路災害復旧(29災55号)工事など3件を公告した。入札参加希望者は入札参加申請書を22日正午までに提出すること。入札は30日を予定。

▽一・釜石住田線枯松地区道路災害防除工事(簡易2型)

施行地 釜石市枯松地内
工 期 147日間
工事内容 施工延長53m、法面吹付工763㎡、構造物取壊工763㎡
予定価格 1679万2000円
入札参加資格 法面処理工事資格者で、沿岸広域振興局(本局)

大石橋補修工事

＝三陸国道事務所＝

申請書は29日までに

または県南広域振興局(花巻地区、北上地区)の区域に建設業法に基づく主たる営業所を有すること。吹付工に従事する技術者および作業員の2分の1以上は自社(連結決算会社または専ら自社の下請けを行っている完全協力会社を含む)雇用の者を配置できること

開札予定時間 10時15分
▽主・釜石遠野線橋野地区道路災害防除工事(簡易2型)

施行地 釜石市橋野町地内
工 期 2019年3月15日まで
工事内容 施工延長84m、ロープネット工508㎡、ロープ掛工2カ所、中腹待受型落石防護柵工84m
予定価格 4551万8000円
入札参加資格 法面処理工事資格者で、沿岸広域振興局(本局、

宮古地区、大船渡地区)または県南広域振興局(花巻地区、北上地区)の区域に建設業法に基づく主たる営業所を有すること。2003年4月1日以降に、元請けとして、150㎡以上の落石防護柵工事を施工した実績を有すること

開札予定時間 10時30分
▽駒木不動沢砂防堰堤築造及び道路災害復旧(29災55号)工事(簡易2型)

施行地 釜石市駒木町地内
工 期 2019年3月15日まで
工事内容 堰堤長33.5m、堰堤高11m、本堤(堤冠部含む)1059㎡、垂直壁90㎡、側壁・水叩167㎡、コンクリートブロック積29㎡、かごマット121㎡
予定価格 1億3759万5000円
入札参加資格 土木工事A級資格者で、岩手県内に建設業法に基づく主たる営業所を有すること。2003年4月1日以降に、元請けまたは一次下請けとして堤高5m以上のダム工事(砂防えん堤、治山ダムを含む)。ただし新設工事に限る)を施工した実績を有すること(特定共同企業体の構成員として施工した工事については、出資比率が20%以上の場合のものに限るものとし、その施工数量にあては、その工事の施工数量に代表者の(7面へつづく)

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



台風シーズンを前に

岩手大学理工学部システム創成工学科准教授

小笠原 敏記

平成30年7月豪雨では、中国・四国地方を中心に洪水氾濫・土砂災害による甚大な被害を及ぼし、犠牲者は229人に上った(7月25日現在)。あらためて「水の怖さ」を思い知らされる災害と言えよう。

最近の岩手県の豪雨災害を振り返ると、やはり平成28年8月30日に襲来した台風第10号を思い起こす読者もいるのではないだろうか。この台風は、気象庁が1951年に統計を開始して以来、初めて東北地方の太平洋側に上陸し、岩手県の東部を中心に強い降水域を南北に形成した。

岩泉雨量観測所では、約200mmの降雨が4時間程度の中に集中したが、岩泉町の年平均降水量が1088.7mmであることを踏まえると、年間降水量の約4分の1の雨が極めて短時間に集中していたことがわかる。岩泉町を流れる小本川の下流にある赤鹿水位観測所では、30日17時の時点で氾濫注意水位2.50mにも満たない水位であったにもかかわらず、20時の時点で河岸高4.87mを越える6.61mに達し、3時間で約4.2mの急激な水位上昇を観測した。

この要因として、この流域における雨の降り方が関係していたと考えられる。種倉雨量観測所がある上流域では、15時に1時間30mmの最大降水量を記録

した。一方、岩泉雨量観測所がある中流域では、18時に1時間66mmの最大降水量を記録した。

すなわち、上流域で降った雨が小本川に流れ込み中流域に流下したところに、中流域の雨が重なることによって急激な水位上昇を引き起こしたものと考えられる。このような状況下で安全に避難することは極めて困難であることから、早期に避難を判断し、避難のリードタイム(個々の防災行動を実施するタイミングと防災行動に必要な時間)を可能な限り伸ばすことが必要になる。

このためには、「タイムライン」をあらかじめ作成しておくことが有効であろう。タイムラインとは、災害の発生を前提に、関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」、「だれが」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列的に整理した計画のことである。事前にある程度予測できる台風のような自然災害には特に有効であり、先を見越した早めの行動をとることができるようになる。

台風シーズンを迎える前に、家庭、職場などの環境下における自分なりのタイムラインを作成してみよう。

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場を、これから現場とともに、**SMARTCONSTRUCTION**

「スマートコンストラクション」を説明します。
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>

スマートコンストラクション 建築

コマツの試験場で、ある実験が行われた。築業1年13歳の若いオペレータに、水路をイメージした溝の掘削と整地をイメージしながら、彼らは挑んだ。サボーターには、二台のICIT建設機械。そして、「スマートコンストラクション」というICITソリューション。ICITリアルデータが土を掘り出した。指示データがすでにインプットされている。若いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後がはばきながら作業を進めてくれる。油圧シリンダは、指先や手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインを整えていく。本来なら、ベテランにしかできない精度、精度と速度ではない。結果は、この通りである。建設現場は、これまで大きく変わりはじめていく。

※建設現場の様子を、ゼミナールからご覧いただけます。

KOMATSU

コマツ岩手株式会社

盛岡・花北・県南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5
TEL 019-638-1100(代)
<http://www.e-komatsu.com/iwate/>